

表 18 種苗輸送結果 (昭和59年)

梱包方法	輸送先	魚種別	収容尾数	収容密度	生残尾数	歩留り	開封時水温
			尾	%	尾	%	℃
①×19箱	静岡県沼津	ミナミクロダイ	8,360	14	7,448	89.0	18.0
①×10箱	"	"	4,000	17	2,700	67.5	17.8
①×11箱	静岡県沼津	コガネシマアジ	4,400	12	4,356	99.0	21.0
①×13箱	"	"	6,500	15	5,850	90.0	21.0
①×10箱	沖縄大宜味村	コガネシマアジ	5,000	20	4,921	98.4	
①×12箱	"	"	7,200	24	6,890	95.6	26.9~27.6
①×4箱	"	"	3,200	32	2,492	77.8	

※ 石垣市→静岡県沼津 所要時間 (14時間)

※※ 石垣市→沖縄大宜味村 所要時間 (7時間)

## V 魚種別の養成試験 (早期種苗の効用に関する検討)

### 材料と方法

八重山支場で種苗生産され、中間育成されたミナミクロダイ、マダイ、コガネシマアジの各魚種について成長、歩留り等について検討した。

#### 1. ミナミクロダイ

ミナミクロダイについては広島県へ、昭和55年4月7日に輸送、室内水槽において仮収容後、A区は流水区、B区は加温区として飼育を行ない、5月28日以降は海面小割網生簀(4×4×3.5m)2面にA区533尾、B区517尾収容して養成を開始した。餌料はアミ、冷凍カキ、イカナゴをミンチ或いはチョッパーにかけたものを給餌された。

静岡県沼津には、昭和58年4月27日、昭和59年4月3日、4月29日に輸送され、その日のうちに海面小割網生簀へそれぞれ、2,093尾、7,448尾、2,700尾収容し、養成を開始した。餌料としてはマダイ用人工配合飼料、サバ、イワシのミンチ魚肉を1日に1~2回給餌された。

#### 2. マダイ

マダイについては昭和56年4月2日採卵、ふ化飼育後4月28日に海面小割網生簀に冲出し、さらに35日間養成された稚魚(平均尾叉長51.7mm, 平均体重3.2g)1,000尾を昭和56年6月1日より養成試験に供試、昭和57年5月18日に測定を兼ねて選別し、小型魚及び異形魚を除いた300尾で新たに養成を開始した。餌料はマダイ用配合飼料にフィードオイル3~7%添加したものを2~4回/日給餌された。

#### 3. コガネシマアジ

コガネシマアジについては静岡県へ、昭和58年、59年の2回輸送試験を実施して、生残魚は全数海面の小割網生簀へ収容して、養成を開始した。しかし両年とも12月中旬までは順調に飼育されたものの12月中旬以降15℃以下の低水温の影響で全滅状態となり、飼育中止を余